

# とねの絆

第21号  
古河市第13地区  
発行  
令和6年2月29日  
とねの絆  
委員会  
広報



第13地区コミュニティ  
会長 佐藤 博史

13地区の皆様におかれましては、日頃より地区コミュニティ活動にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、昨年の9月10日(日曜日)となり、13地区コミュニティ主催の地域防災勉強会、いわゆる水防に関する勉強会がとねミドリ館において、市の防災監他3名の職員を迎え、約2時間行なわれました。会場の都合から地区内全員参加とは出来ず、147名の参加となりました。よって今回は参加出来なかった皆様の為に、勉強会の内容で特に大事な点を取り上げてお話ししたいと思います。

まず第1は、これまでに川の氾濫や堤防が決壊などして川の水が流入したことはなかったですが、近年は地球温暖化の影響で異常気象が続いて川の増水の危険性が高まり、何時氾濫等が起きても不思議ではないと一人ひとりが危機意識を持つことです。

第2は避難にあたって今のうちから避難ルート、避難先を決めること。避難先は近くの避難所を第1目標とせず、出来るだけ離れた水の来ない高い土地の避難場所を第1目標とする。

第3は避難のタイミングですが、気象庁の発令する警戒レベル1又2で避難の準備をし、市の発令する警戒レベル3(高齢者等の避難指示)で避難を開始し、警戒レベル4(全体の避難指示)で避難を完了する。避難



市長と語ろう  
まちづくりに参加して  
砂井新田行政区 枝 正男

「市長と語ろう まちづくり」の講演を聴き、感銘を受けました。テーマ「まちに活力、人に安心、魅力あふれる都市づくり」を通じて、市長は地域ブランドの強化と市民の幸せを重視するビジョンを明確に示しました。このアプローチは、持続可能な開発と文化的な豊かさを統合することに重点を置いており、これが市民の生活の質の向上に直結していることが印象的でした。また、市民一人ひとりが、まちの発展に積極的に参加することの重要性を強調しており、これにより包括的で生活しやすいまちづくりが可能になると感じました。この講演は、私たちの住む街をより良いものにするための新たな視点と意欲を与えてくれました。



「市長と語ろう  
まちづくり」

町水海行政区 能城 忠雄

市長と語ろう

## コミュニティスクールについて

水海小学校長 橋口 純子

コミュニティスクールは、「学校運営協議会」が設置されている学校で、学校と保護者や地域の方々が学校の課題解決や地域の子どもの成長に向けて知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させ、「地域とともにある学校」を推進する仕組みです。古河市では、令和5年度からすべての小中学校で、「学校運営協議会制度」が発足しました。さらに、学校と地域が連携した具体的な支援・活動については、「地域学校協働活動」として地域住民が学校を支援する活動をすすめることになりました。本年度、水海小学校は、「地域学校協働活動」の総和地区モデル校として指定を受けておりま

- 11月17日(金)、中央公民館で第2次古河市総合計画第2期基本計画の取り組みについて市長から説明を受けました。主なものとして、
  - ①古河市の良いところの発信
  - ②待機児童の解消(令和3年度から0)ヤングケアラーへの支援
  - ③オンライン学習支援アプリの浸透
  - ④地域産業の販路のため地域商社事業の展開、文化発信として、ホリプロとの連携
  - ⑤カーボンニュートラルの推進として、EVバスの導入
  - ⑥警察署の移転など古河駅東部土地画整地事業
  - ⑦オンラインによる行政手続き、シティwifiiの整備などの現状が報告されました。
- 続いて住民との質疑応答では、
- ①古河の魅力発信として伝統の発信
  - ②ぐるりん号の運用では、路線や運行時間の変更
  - ③市民の歴史認識を高めるために「古河カルタ」などを使い、

す。水海小学校運営協議会で、低学年児童のみの下校時の安全面が議題になりました。学区が広範囲におよぶため、教職員だけではカバーできないのが現状です。そこで、地域安全支援ボランティア(見守り隊)の皆様の協力を得ることになりました。おかげ様で、子どもたちは安心して下校することができるようになりました。他にも除草作業や学習支援ボランティアでも協力していただいております。これらの活動を通して、地域の方々とつながり、新たな「絆」となり、豊かな心が育まれることに、感謝申し上げます。

## 交通委員長

稲葉 信也



国道354号線高野

子どもの頃から歴史教育を推進するために、新たな賑わい拠点を整備したり、農泊設備を整備したりしている。

- ⑤老人クラブへの支援について、施設の整備のみならず、交流の機会を増やしていきたい。

市民の意見を元に計画が作成され、いろいろな課題を解決しながら着実に前進している様子に、安心感を得られた1日でした。



前林交差点



前林交差点



水海小学校入口交差点



町水海交差点

水海小

「見守り隊」発足

「低学年児童下校見守り開始」

13地区コミュニティ  
副会長 飯田 明

水海小学校は、令和5年度スタートした「地域学校協働活動」の総和地区モデル校として、学校の思いや地域の願いに基づき令和5年9月21日から低学年(1・2年生)児童下校を対象に原則毎週月曜日・木曜日に地域安全支援ボランティア(老人会や地域支援者等コミュニティ)見守り隊が活動を開始、笑顔の挨拶・会話などで両者に新たな「絆」が心の中に芽生えていると思います。

具体的には、内水海・町水海区(砂井新田・上砂井の2行政区)は釈迦小学区のため地区外において地域学校協働活動用ビブス/車用パウチを見守り隊が着用等し、主要な箇所での立哨・同伴下校や車のパトロールで安全見守り活動を実施しています。



見守り隊2



見守り隊1



見守り隊3



開会式



ダンス



山車



見守り隊4

8日は、民俗芸能の集いという事で各行政区のお囃子が披露されました。開会行事の中で、山車・神輿の行進が行われましたが、小さな子どもたちも引き綱に参加しており、伝統的な行事を通じて地域のつながりを感じました。世代を超えた一体感に感謝した2日間でした。

7日は、幼稚園児、趣味サークルのダンス、中学校、高校の吹奏楽部の演奏が披露されました。趣味サークルはフラダンスを披露され、世代横断のパフォーマンス、国際交流協会の二胡演奏も披露されました。

古河関東ド・マンナカ祭り

町水海行政区 能城 忠雄



企業等の出店、他

多世代交流のまちづくり

上砂井行政区 高塚 雅之

2月3日、UセンターKI防水で、栃木県小田原市の事例の講演をしていただきました。「一人じゃなくて、みんなでなんとかする社会を目指して」活動しているそうです。①一人②独りではない地域③選択肢があつて諦めなくていい地域④大変なことはいつかは起きる。その時に一人で抱えなくていい地域 困ったときに相談できる人数が多いほど、幸福度を高く感じるので、相談事を解決できなくても、良いとおっしゃって



濱野 将行氏

地域支えあい講演会!

「古河市のみんな! 家にもってないでテデコイヤ!」 ~誰もが主人公になれる方法教えます~

ご近所福祉の人気講師がやります! あなたの地域を応援! いつまでも生き生きと暮らせる地域を目指しませんか?

講師 酒井保氏



令和5年度古河市 支え合い講演会報告 町水海行政区 能城 忠雄 2月10日、とねミドリ館で、「地域支え合い講演会」が開催されました。当日は、二部構成で講演会が行われました。第1部では、ご近所福祉クリエイションの酒井保氏から「つ

ました。その方に関心を持ち、なんとなく知り、わからない事をうなずかない。皆で支え、応援できれば、不安なく生活していける地域にできるかな。 今回の交通安全立哨指導をするときは、朝のあいさつだけでなく、「いつてらっしゃい」と子ども達に言ってみようかと思えます。このおじさん、だれかなと関心を持ってもらえれば、うれしいです。今回の研修会を受け少しでも成果につながれば幸いです。ありがとうございました。



どんど焼き1



どんど焼き2

どんど焼きが行われました。

町水海行政区 能城 忠雄

三島神社では、例年、正月の14日にどんど焼きが行われます。これは、年神様を見送る火祭りです。

町内の氏子が持ちよった正月飾りやしめ縄、書き初め、昨年頂いたお守りなどをお炊き上げしていただきました。どんど焼きには正月飾りを目印に家にきていただいた年神様を正月飾りを燃やした煙とともに見送るという意味もあるそうです。縁起物を燃やして、五穀豊穡、商売繁盛、家内安全、無病息災をお願いして年神様をお送りしました。



お守り

編集後記

令和6年元日早々に震度7の地震が起きた能登半島地震に対し、第13地区コミュニティ(7行政区)として能登半島地震災害義援金(10万円)を一括納入しました。 とねの絆第21号の原稿のご協力ありがとうございました。 広報委員長 梁河 紀栄